

天候不順により、果実の肥大や成熟が平年及び前年より遅れています。
着色の進み具合や糖度を確認し、収穫しましょう！

令和元年 10 月の気象

令和元年 10 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は全ての半旬において平年より高く推移した。月平均気温は 19.7℃で、平年より 1.8℃、前年より 0.8℃高かった。

降水量は第 2、第 6 半旬以外の半旬では平年より多く、特に、豪雨のあった第 5 半旬は 320mm と平年の一か月分以上の雨が降った。月合計は 662mm で平年の 265%、昨年の 538%であった。

日照時間は第 3～第 5 半旬において平年より少なかった。月合計は 119 時間で平年の 87%、前年の 79%であった。

表 1 令和元年 10 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	23.1	20.5	21.0	59	41	28	41	20	22
2	21.0	18.8	22.5	22	77	1	27	20	37
3	21.1	18.6	18.6	136	31	21	10	22	5
4	18.7	17.6	17.5	121	36	2	4	23	15
5	17.5	16.4	16.5	320	28	5	11	23	35
6	17.1	15.9	17.8	7	38	68	27	29	38
平均/計	19.7	17.9	18.9	662	250	123	119	137	151

2 果実及び樹の生育

10 月 31 日における調査園の果実生育状況を表 2 に示した。「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」の横径は 3 地区の平均で見るとそれぞれ 6.0cm、6.6cm、6.6cm であった。「興津早生」は平年より 8%、前年より 10%小さかった。「大津 4 号」は平年より 8%、前年より 13%小さかった。「青島温州」は平年より 7%、前年より 10%小さかった。

「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」の縦径は、3 地区の平均で見るとそれぞれ 4.7cm、4.7cm、4.8cm であった。「興津早生」は平年より 6%、前年より 10%小さかった。「大津 4 号」は平年より 6%、前年より 10%小さかった。「青島温州」は平年より 4%、前年より 6%小さかった。

「興津早生」、「大津 4 号」及び「青島温州」の果形指数は、3 地区の平均で見るとそれぞれ 1.3、1.4、1.4 であった。平年及び前年と同程度であった。

表2 果実の生育（令和元年 10月31日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	三芳地区	6.2	6.6	6.7	4.8	5.1	5.3	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	5.6	6.3	6.1	4.4	4.8	4.6	1.3	1.3	1.3
	暖地園研	6.2	6.7	7.2	4.8	5.2	5.7	1.3	1.3	1.3
	平 均	6.0	6.5	6.7	4.7	5.0	5.2	1.3	1.3	1.3
大津4号	三芳地区	6.5	7.1	7.8	4.7	5.0	5.6	1.4	1.4	1.4
	千倉地区	6.4	7.2	7.2	4.7	4.8	4.8	1.4	1.5	1.5
	暖地園研	6.9	7.4	7.7	4.6	5.1	5.2	1.5	1.5	1.5
	平 均	6.6	7.2	7.6	4.7	5.0	5.2	1.4	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	6.3	7.0	7.7	4.8	5.0	5.5	1.3	1.4	1.4
	千倉地区	6.6	7.0	6.7	4.9	4.9	4.6	1.3	1.4	1.5
	暖地園研	7.0	7.3	7.6	4.8	5.0	5.1	1.5	1.5	1.5
	平 均	6.6	7.1	7.3	4.8	5.0	5.1	1.4	1.4	1.5

各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、鳥害、落果、台風害により調査果実を変更した樹がある
果形指数は、横径/縦径

「興津早生」の果実品質

「興津早生」の果実品質を表3に示した。

着色は、3地区の平均で4.3であった。全ての調査地において平年及び前年より着色の遅れがみられた。

糖度は、3地区の平均で8.2であった。全ての調査地において平年及び前年より低かった。

酸度は、3地区の平均で0.78であった。三芳地区において平年及び前年より低かった。千倉地区及び暖地園研において平年より低く前年と同程度であった。

甘味比は、3地区の平均で11.0であった。三芳地区において平年及び前年より高かった。千倉地区及び暖地園研において平年より高く、前年より低かった。

果肉歩合は、3地区の平均で82.5%であった。平年及び前年と同程度であった。

表3 早生温州「興津早生」の果実品質（令和元年 10月31日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
三芳地区	3.7	6.9	7.8	8.7	9.6	10.5	0.63	0.99	0.78	14.1	10.3	13.5	83.4	81.2	83.4
千倉地区	4.9	7.4	8.0	8.6	9.8	10.3	0.94	1.14	0.91	9.2	8.7	11.3	83.0	82.1	82.5
暖地園研	4.3	7.1	7.3	7.3	8.9	8.9	0.75	1.03	0.77	9.8	9.1	11.6	81.3	82.1	82.7
平 均	4.3	7.1	7.7	8.2	9.4	9.9	0.78	1.05	0.82	11.0	9.4	12.1	82.5	81.8	82.9

平年値は平成11~30年の平均値
甘味比=糖度/酸度
果肉歩合=果肉重/1果重×100

11月の栽培管理

(1) 早生温州の収穫・予措

品質をそろえるため、また着色後に発生する浮皮を防止するため8分着色以上の果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いのでコンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置く出荷予措を行うと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり成分量で6、4、6kg追肥する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には収穫後直ちに液肥を散布する。

(3) 病害虫の防除

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。また、台風の影響で著しく落葉した樹では、散布を見合わせる事が望ましい。

青かび病・緑かび病の予防にはベフラン液剤25(2000倍液)※を散布する。

※早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>